

支部からのお知らせ

HOME > 支部からのお知らせ (top) > JIA近畿会報バックナンバー > 【連載】保存再生 建築家の視点

投稿：2009年8月3日
by [編集]

【連載】保存再生 建築家の視点

ポスト シェアする

環濠自治都市 平野郷の保全、再生状況

保存 1

執筆者：吉岡昌一

（吉岡昌一建築設計事務所）

去る7月11日（土）環濠自治都市 「平野郷」をたずねました。

天王寺からJR大和路線で5分で平野駅に着きます。

ここが環濠都市 平野郷の最寄り駅で、古くから「堺」と並ぶ「平野」が大阪中心部よりたいへん近いのに驚きます。

他の交通機関では地下鉄谷町線「平野」駅があるのだから大阪に近いと言うより、「大阪の中の平安時代からの大阪」というのかもしれない。

当日は大阪市平野区の区民ホールに所属されているボランティアで、平野郷に詳しい福島さんにガイドをお願いしていたので、近くで待ち合わせし平野郷についてお話を聞きました。

福島さんは「平野郷」にたいへん詳しい方で、とうとうと流れるように平野郷についてガイドブックに書いたら分厚くて持てなくなる程のボリュームで、多方面に渡って考察も深く、人と人のつながりも「よくそこまで知ってますね」というほど詳しいのにびっくりしました。

大阪の平野筋はこの平野から命名されているとのことや、大阪の「末吉橋」は「平野郷」の代官末吉氏であることなどを聞くと、思わず大阪の安土町通りが滋賀県の安土から命名されたのだろうかと思ってしまうし、（確かに創業者が滋賀県出身である丸紅大阪本店は安土町通りに面している）また、信長の築城地で有名である安土から商人を呼び寄せて秀吉がつけた名前だろうかとか、どんどん想像が膨らんでいくのでした。

町の名前、通りの名前、橋、などはぜひ残してほしい建築と同じ文化財です。

通りの命名もとであろう滋賀県の安土町も合併で町名がなくなるそうです。

話題は尽きませんでしたが、聞いているだけでは平野にきている意味がないのでまずは大念仏寺に参拝です。たいそう大きな寺で、平野郷の勢いが偲べれます。本堂は火災にあって昭和13年に再建されているそうですが、戦争前のこの時代によくこれだけの建築資材を集めたものだ后感心します。府内最大の木造建築です。

次に杭全（クマタ）神社に向かう途中に泥堂町の寄付者掲示板が歩道際によく見えるかたちで設置されていました。内容は平成21年度のもので、寄付金の額が500円の人から、上は金額が書いていない人まですべて掲示されています。まちのお金をうまく集める仕組みがその名の通りガラス張りにされています。思わず、誰がいくら寄付しているのか見てしまいます。上手です。

上には平野郷のシンボル「ちょうちん」がありました。企業のコマーシャルでしょうか。ちょうちんには企業名が書かれています。商売人は個人と違ってもう少し寄付しようと思ってしまうような感じです。まちの活力はやはり財源確保でしょう。

保存 2

寄付者名簿

杭全神社の本殿は春日神社からの移築だそうです。移築は木造建築には簡単で、LCCO2（ライフサイクルシーオーツー）で考えても炭素量が少なく環境にいい最古最新のローCO2技術です。

当日は夏祭りで、参道に屋台が設営中でした。よく見るとこれが実にうまく出来ているのです。柱、腕木は木製でボルト一本で固定されています。屋根角度の調節用に柱、梁の何ヶ所か穴が開いていてここに方杖金物を固定して角度を調整する仕組みです。テントがついた桁は伸縮性の物干し竿を利用して横幅を自由に変更できるようになっています。これを先端上部を少し欠いた腕木にテンションをかけて引っ掛けるのです。このような仮設建築は軽やかで非常に気持ちがいいものです。ずいぶん長い時間をかけて洗練されてきたのでしょう。

保存は建築のかたちだけでなく、ぜひ残してほしい建築技術も対象です。

保存 3

カテゴリー;

- ▶ 支部からのお知らせ
- ▶ 会員専用
- ▶ JIA近畿会報バックナンバー

アーカイブ;

年月を選択 ▼

最新のお知らせ;

2026年2月9日

「あつまれ！けんちく女子」

2025年8月18日

【申込延長9/30】JIAフィールドトリップ2025「熊本地震震災ミュージアムKIOKU」2024度JIA日本建築大賞授賞作品講演会＋建築見学会

2025年7月24日

若手建築家と共に考える万博と「これからの建築」

2025年7月22日

2025釜山国際建築大展（アイデアコンペ）1次審査結果（発表）

2025年6月29日

JIAヘリテージマネージャー養成講座

🔍 検索



▶ 協会員（メーカー）一覧はこちら

▶ バナー広告のご案内

建築をつくる仲間たち

散策中、夏祭りの太鼓台に出会いました。楽しそうです。私がいままで見たことがないかたちにびっくりしました。

杭全神社を後にして、町並みを散策しながら「ひらの映像資料館」にいきました。

ここは「平野郷H O P Eゾーン協議会」で、町並み保存のボランティアで活躍されて居られる松村さんから「平野郷の町づくり」をお聞きました。これは歴史的・文化的な雰囲気町の町並みなど、地域の特性を活かしながら魅力ある居住地をつくるため、地域の人々と大阪市が協力して行っている事業で、この中心となるのがこの協議会です。松村さんが会長（惣年寄）です。協議会になる前からの活動は約30年くらいになるそうです。

これくらいの地道な住民活動があって初めて平野郷のまちづくりがゆっくり、じっくり進んでいる感じです。

平野郷以外の人でも自由参加だそうです。

平野郷H O P Eゾーン協議会では「まちなみガイドラインの策定」「まちなみ修景」「町屋情報バンク」「まちなみ憲章の策定」「地区計画」「まちを知るワークショップ」「防犯・防火」等たくさんの事項を進めてこれれています。

いくつかの修景事例も見せてもらいました。修景事例1の家は電話番号が0 0 0 1番だそうで、「町で一番最初に電話を引いた家」だそうです。これを聞くだけで往時が想像できて面白いです。

平野郷は環濠集落、平野氏、坂上田村麻呂の第二子である坂上廣野麻呂の屋敷跡、その子孫にて七名家の一つである末吉家、近松門左衛門、重要文化財の奥家、元庄屋屋敷をそのままレストランに使っている平野郷屋敷、まだまだ整備・修景されていない往時の大邸宅などもまだまだあるようです。建物、歴史、文化、そこに住む人々などが縦横に絡み合ってまちづくりが現在も進行中です。

もっと書く事がいっぱいあるのですが、私の文章を読むより、まずは行ってみることをお勧めします。

ガイドの福島さん、松村さんに会ってみる事です。

きっと往時の平野郷にタイムスリップできます。

関 連 記 事

- 【連載】保存再生 建築家の視点 (12.6)
- 【連載】保存再生 建築家の視点 (12.6)
- 【連載】保存再生 建築家の視点 (12.6)
- 【連載】保存再生 建築家の視点 (12.6)
- 【連載】保存再生 建築家の視点 (12.6)

« ひとつ前に戻る

前へ

次へ

提言書
+
大会報告



JIA 建築家大会 2016大阪
笑都物語

驚いできたもの 驚いでゆくもの



Kansai Architect Grand Prize

関西建築家大賞 **Grand Prize**

Kansai Architect Rookie of the year award

Rookie 関西建築家新人賞

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

〒541-0051 大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館4階 TEL 06-6229-3371

[MAP](#)

[MAIL](#)

© 2011-2026 JIA Kinki.